

5G通信

Vol.46

いま話題の次世代通信「5G」に関する
とっておきの情報をご紹介します

2021年、5Gはさらに加速へ

2021年は世界で5Gの普及が加速し、より身近に感じられるようになります

世界的に5G商用化は1年で大きく進展

- 2019年に韓国、米国、中国で商用サービスが始まった5G(第5世代移動通信システム)は、2020年に日本も含め世界的に普及が進展しました。11月現在、世界49カ国で商用化されており、約1年前に比べて15カ国増えました。
- 5Gの進展にあわせて、5G対応端末の普及も本格化しています。5Gスマートフォン(以下、スマホ)は主力メーカーの機種が出揃ったことで、今後世界的に4Gスマホからの買い替えが進むとみられています。
- さらに、2020年はコロナ禍をきっかけに、テレワーク、遠隔医療等の活用が進むなど社会生活においてデジタル化への移行が加速しました。通信需要の増加で半導体業界は未曾有の好景気に沸き、新たなeコマース(電子商取引)など先進的な通信サービスが続々と誕生しています。

アジアを中心に5G普及本格化へ

- 新たな通信需要が増加する一方で、2020年の5Gの人口カバー率*1は世界で2割にも達していません。5G通信のインフラ敷設を喫緊の課題として、世界全体で約89兆円*2ともいわれる設備投資が今後本格化する見込みです。2026年にはアジア地域を中心に人口カバー率は60%まで拡大する見通しです。
- そして、5Gスマホや新たな通信サービスの誕生・普及とともに、関連する電子部品技術も進化し、関連企業のさらなる成長が期待できます。特にアジア企業は、先進的な技術・サービスを有する企業が数多く存在することから、膨大な人口が生み出す成長性の高い市場を味方に、今後世界においてますます存在感が増すと考えられます。
- 2021年は5G社会の本格到来です。「コロナ後の世界」における構造変化を支える基盤としての役割を担い、幅広い産業の需要を取り込みつつ、グローバルな経済成長をけん引していくことが期待されます。

*1: エリクソン予測値

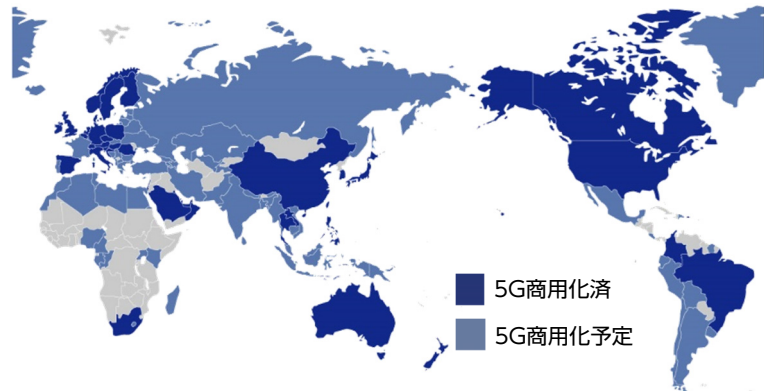
*2: 2020年から2025年の5年間の5G通信設備投資額におけるGSMA予測値(米ドルベース)を当社が2020年11月末の為替レートを基に円換算

世界の5G商用化の現況

2019年12月末現在

世界**34カ国**
61の通信事業者

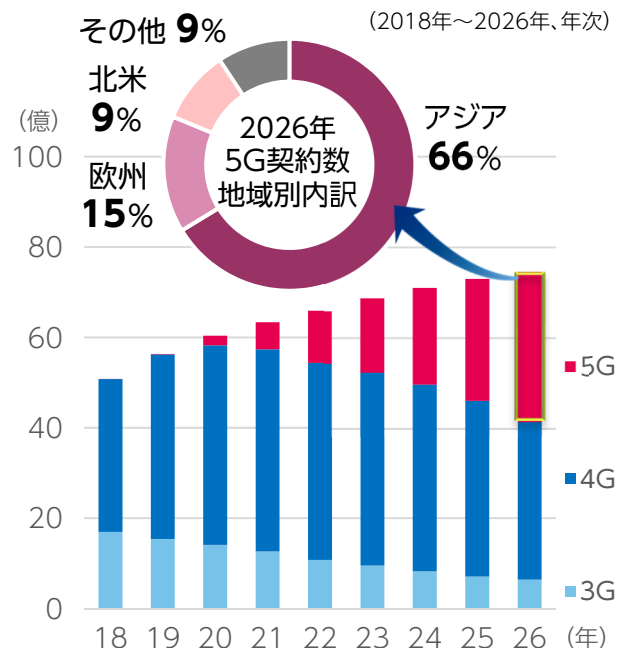
2020年11月現在

世界**49カ国**
122の通信事業者

※上記は2020年11月時点の情報に基づく。なお、商用化は国・地域によりカバーしている範囲が異なります。

(出所) GSA(モバイル通信端末の業界団体)「5G Market Snapshot November 2020」を基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

世界の携帯端末契約数の推移



※4G:LTE、3G:WCDMA・HSPA・TD-SCDMA・CDMA

※比率は、端数処理の関係で合計値が100%とならない場合があります。

※2020年以降はエリクソン予測値。アジアはオセアニア地域を含む(出所)エリクソン「Ericsson Mobility Report(November 2020)」のデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成



【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。